

日刊食料新聞

青果・花き版

THE NIKKAN - SHOKURYO SHIMBUN

<http://www.nikkan-s.co.jp/>

全国生鮮流通

フォークラムから

《4》



るにつれ、花きは生食品
というよりも嗜好品と
いう印象が強くなって
る。また、高騰時の制御
が必要だという問題があ
る。一方、後者は処理量

果があるが、セリ方式だ
けで議論してはならな
い。つまり、セリ販売で
は開発商品に対する評価
や、高級品・差別化商品
の識別ができないため、
価格形成の二分化が必要
になる。空洞化、低価格
化一辺倒からの脱出を圖
る。さらに、花きの仕入れ
は早朝から午後2時3
時までと拘束時間が長
く、仕入れに要する人件

空洞化、低価格化一辺倒からの脱出を

JAあいち経済連管理部 情報システム担当課長 岩崎順克氏

現在、市場ではE D
P(電子データ処理シス
テム)を用いた販売事務
や機械セリ、仕分物流が
行われている。また、市
場物流とセリ物流はな
らぬ。大量物流や少量品種、
正確な仕分けなどの物流
管理機能も充実するよう
になった。一方、消費の
面でも生活習慣が変化す

きている。
花き市場がもつ機能の
1つとして、セリがあ
る。セリ方式には、セリ
上げ方式とセリ下げ方式
の2種類があり、前者は
商品の価値を優先する
ため、落札に時間を要す

る経営戦略をもたなけれ
ばならない。
また、中央市場へ荷物
が集中することを踏ま
え、セリ方式と物流に地
域性が求められている。
地域によって設備の稼働
率も違ふし、実需者の求
める商品も異なってくる。
様々な価格形成要素
を考慮して、地域特性に
合った仕組みを選択する
べきだ。

今まではブレイクす
る企業が少ない、これま
で多くの企業が事業を撤
退してきた。消費のため
のリスを減少する必要
もある。
が課題となる。また、財
務面での信用保証を確立
し、インターネット通販
のリスを減少する必要
もある。

〇〇〇